

ACG031-P02

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

ノルウェー・スピッツベルゲン島におけるタールスポット病菌によるホッキョクヤナギの光合成活動への影響

Effect of tar spot disease on photosynthetic activity of Salix polarisin Spitsbergen Island, Norway

増本 翔太^{1*}, 内田雅己², 東條元昭³, 神田啓史², 伊村智²

shota masumoto^{1*}, Uchida Masaki², Tojo Motoaki³, Kanda Hiroshi², Imura Satoshi²

¹総研大極域科学, ²国立極地研究所, ³大阪府大院生命環境

¹SOKENDAI, ²National Institute of Polar Research, ³Osaka Prefecture Univ.

高緯度北極域のノルウェー・スピッツベルゲン島・ニーオルスンにおいて、タールスポット病(黒紋病)と呼ばれる植物病原菌によるホッキョクヤナギの光合成への影響について8月7-20日にかけて調査した。タールスポット病の分布調査、感染葉におけるタールスポット病微部被覆面積及び感染葉のクロロフィル蛍光活性の測定、顕微鏡による感染葉の形態観察を行った。その結果、タールスポット病は調査地の広範囲に分布していること、感染葉におけるタールスポット被覆面積は大きく、感染によって被覆部では組織が破壊されてしまうこと、感染葉でも非被覆組織は蛍光活性に影響を受けないことが分かった。今回の研究ではタールスポット病が広く分布し、感染葉においては被覆部がホッキョクヤナギの光合成に影響を与えていることが示された。